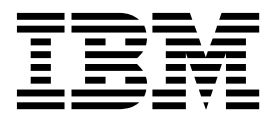


バージョン 10 リリース 1
2017 年 11 月 17 日

IBM Marketing Operations ア ップグレード・ガイド



注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 79 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Operations バージョン 10 リリース 1 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Version 10 Release 1
November 17, 2017
IBM Marketing Operations Upgrade Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2002, 2017.

目次

第 1 章 アップグレードの概要	1
アップグレードのロードマップ	1
インストーラーの機能	2
インストールのモード	3
サンプル応答ファイル	3
アップグレード・インストールが失敗した場合のレジ ストリー・ファイルの修正	4
Marketing Operations の資料とヘルプ	5

第 2 章 Marketing Operations アップグ レードの計画	7
前提条件	7
すべての IBM Marketing Software 製品のアップグ レード前提条件	10
クリーンアップのためのデータベース照会の実行	10
エラー・ログおよび警告メッセージ	11
既存のキャンペーン・プロジェクトまたは要求での アップグレード	11
Marketing Operations データ・ソース情報ワークシ ート	12

第 3 章 Marketing Operations をアップ グレードするには	13
アップグレードの前にシステムをバックアップする	13
インストーラーの実行および構成プロパティの更 新	13
データベースの手動アップグレード	14
アップグレードされた Web アプリケーションの配 置とアップグレード・プロセスの実行	16
Marketing Operations アップグレードの検証	16
トリガー手順の復元	17
クラスター環境での Marketing Operations のアッ プグレード	18

第 4 章 概要	19
Websphere での Marketing Operations の配置	19
WAR または EAR ファイルの配置	20
Cookie の設定の定義	22
EAR モジュール設定の定義	22
WebLogic での Marketing Operations の配置	23
セキュリティ強化のための追加構成	24
X-Powered-By フラグの無効化	24
制限された Cookie パスの構成	25

第 5 章 Marketing Operations のアンイ ンストール	27
--	----

第 6 章 configTool	29
------------------	----

第 7 章 IBM Marketing Operations 構 成プロパティ	35
Marketing Operations	35
Marketing Operations navigation	35
Marketing Operations バージョン情報	37
Marketing Operations umoConfiguration	38
Marketing Operations umoConfiguration Approvals	44
Marketing Operations umoConfiguration templates	45
Marketing Operations umoConfiguration attachmentFolders	47
Marketing Operations umoConfiguration Email	49
Marketing Operations umoConfiguration markup	50
Marketing Operations umoConfiguration grid	51
Marketing Operations umoConfiguration workflow	53
Marketing Operations umoConfiguration integrationServices	54
Marketing Operations umoConfiguration campaignIntegration	55
Marketing Operations umoConfiguration reports	56
Marketing Operations umoConfiguration invoiceRollup	56
Marketing Operations umoConfiguration database	57
Marketing Operations umoConfiguration listingPages	61
Marketing Operations umoConfiguration objectCodeLocking	62
Marketing Operations umoConfiguration thumbnailGeneration	63
Marketing Operations umoConfiguration Scheduler intraDay	65
Marketing Operations umoConfiguration Scheduler daily	65
Marketing Operations umoConfiguration Notifications	65
Marketing Operations umoConfiguration Notifications Email	67
Marketing Operations umoConfiguration Notifications project	69

Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications projectRequest	72
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications program	72
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications marketingObject	73
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications approval	73
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications asset	74
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications invoice	75

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前	
に	77

特記事項	79
商標	81
プライバシー・ポリシーおよびご利用条件に関する	
考慮事項	81

第 1 章 アップグレードの概要

Marketing Operations のアップグレード、構成および配置を行うと、Marketing Operations のアップグレードが完了します。 Marketing Operations アップグレード・ガイドには、Marketing Operations のアップグレード、構成および配置に関する詳細情報が記載されています。

Marketing Operations アップグレード・ガイドの使用に関する幅広い理解を得るには、『アップグレードのロードマップ』セクションを参照してください。

アップグレードのロードマップ

Marketing Operations のアップグレードに関して必要な情報を素早く見つけるには、アップグレードのロードマップを使用します。

以下の 表 1表を使用して、Marketing Operations のアップグレードのために完了すべきタスクを探すことができます。

表 1. Marketing Operations アップグレード・ロードマップ

トピック	情報
『第 1 章 アップグレードの概要』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 • 2 ページの『インストーラーの機能』 • 3 ページの『インストールのモード』 • 5 ページの『Marketing Operations の資料とヘルプ』
7 ページの『第 2 章 Marketing Operations アップグレードの計画』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 • 7 ページの『前提条件』 • 10 ページの『すべての IBM Marketing Software 製品のアップグレード前提条件』 • 11 ページの『エラー・ログおよび警告メッセージ』 • 12 ページの『Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート』

表 1. Marketing Operations アップグレード・ロードマップ (続き)

トピック	情報
13 ページの『第 3 章 Marketing Operations をアップグレードするには』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 • 13 ページの『アップグレードの前にシステムをバックアップする』 • 13 ページの『インストーラーの実行および構成プロパティの更新』 • 14 ページの『データベースの手動アップグレード』 • 16 ページの『アップグレードされた Web アプリケーションの配置とアップグレード・プロセスの実行』 • 16 ページの『Marketing Operations アップグレードの検証』 • 17 ページの『トリガー手順の復元』 • 11 ページの『既存のキャンペーン・プロジェクトまたは要求でのアップグレード』 • 18 ページの『クラスター環境での Marketing Operations のアップグレード』
19 ページの『第 4 章 概要』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 • 19 ページの『Websphere での Marketing Operations の配置』 • 23 ページの『WebLogic での Marketing Operations の配置』
27 ページの『第 5 章 Marketing Operations のアンインストール』	このトピックには、Marketing Operations のアンインストール方法についての情報が示されています。
構成ツール・ユーティリティ	Marketing Operations の構成ツール・ユーティリティについて詳しく説明しています。

インストーラーの機能

どの IBM® Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードする場合も、スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する必要があります。例えば、Marketing Operations をインストールするには、IBM Marketing Software スイート・インストーラーと IBM Marketing Operations インストーラーを使用する必要があります。

IBM Marketing Software スイート・インストーラーと製品インストーラーを使用するには、その前に、以下のガイドラインに従っていることを確認してください。

- スイート・インストーラーおよび製品インストーラーは、製品のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにある必要があります。ディレクトリー内にマスター・インストーラーと共に複数のバージョンの製品インストーラーがある場合、マスター・インストーラーは常に製品の最新バージョンを、インストール・ウィザードの IBM Marketing Software 製品画面に表示します。
- IBM Marketing Software 製品のインストール直後にパッチをインストールすることを予定している場合、スイート・インストーラーや製品インストーラーと同じディレクトリー内にパッチ・インストーラーが入っていることを確認してください。

- IBM Marketing Software インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは /IBM/IMS (UNIX) または C:\IBM\IMS (Windows) です。ただし、このディレクトリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM Marketing Software スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。Marketing Operations をインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

アップグレードの場合、インストーラーを使用して、初期インストール時に行うタスクと同じタスクを多数行います。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Marketing Operations をインストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Marketing Operations をインストールするには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Marketing Operations を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力が必要としません。

注: サイレント・モードは、クラスター Web アプリケーションまたはクラスター・リスナー環境のアップグレード・インストールではサポートされていません。

サンプル応答ファイル

Marketing Operations のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成するには、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 2. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM Marketing Software マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。

表 2. サンプル応答ファイルの説明 (続き)

サンプル応答ファイル	説明
<code>installer_product initials and product version number.properties</code>	Marketing Operations マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、 <code>installer_ucn.n.n.n.properties</code> (ここで、 <code>n.n.n.n</code> はバージョン番号) は、Campaign インストーラーの応答ファイルです。
<code>installer_report pack initials, product initials, and version number.properties</code>	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、 <code>installer_urpcn.n.n.n.properties</code> (<code>n.n.n.n</code> はバージョン番号) は、Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。

アップグレード・インストールが失敗した場合のレジストリー・ファイルの修正

インストーラーがインストール済み製品の基本バージョンを検出できなかったためにインストールが失敗した場合は、ここで説明する方法でレジストリー・ファイルを修正できます。

`.com.zerog.registry.xml` という名前の InstallAnywhere Global レジストリー・ファイルが、IBM Marketing Software 製品のインストール時に作成されます。このレジストリー・ファイルに、サーバー上にインストールされたすべての IBM Marketing Software 製品が、その機能やコンポーネントと共に記録されます。

1. `.com.zerog.registry.xml` ファイルを見つけます。

インストール先のサーバーに応じて、`.com.zerog.registry.xml` ファイルは次のいずれかの場所にあります。

- Windows サーバーの場合、このファイルは Program Files/Zero G Registry フォルダーにあります。

Zero G Registry は非表示のディレクトリーです。非表示のファイルとフォルダーを表示する設定を有効にする必要があります。

- UNIX システムの場合、このファイルは以下のいずれかのディレクトリーにあります。
 - root ユーザー: `/var/`
 - root ユーザー以外: `$HOME/`
- Mac OSX サーバーの場合、ファイルは `/library/preferences/` フォルダーにあります。

2. ファイルのバックアップ・コピーを作成します。

3. ファイルを編集して、インストール済み製品のバージョンについての記述を含むすべての項目を変更します。

例えば、IBM Campaign バージョン 8.6.0.3 に対応するファイルの部分を次に示します。


```
<product name="Campaign" id="dd6f88e0-1ef1-11b2-accf-c518be47c366"
version=" 8.6.0.3 " copyright="2013" info_url="" support_url=""
location="<IBM_Unica_Home>\Campaign" last_modified="2013-07-25 15:34:01">
```

この場合は、`version=" 8.6.0.3 "` という記述を含むすべての項目を、基本バージョン (ここでは 8.6.0.0) に変更します。

Marketing Operations の資料とヘルプ

以下の表では、Marketing Operations のインストールに関する様々なタスクについて説明しています。

「資料」 列には、タスクに関して詳しい情報が記載されている資料の名前が含まれています。

表 3. 起動して稼働状態にする

タスク	資料
新機能、既知の問題、および回避策についてのリストを表示	IBM Marketing Operations リリース・ノート
Marketing Operations のインストールまたはアップグレード、および Marketing Operations Web アプリケーションの配置	以下のいずれかのガイド: - IBM Marketing Operations インストール・ガイド - IBM Marketing Operations アップグレード・ガイド

以下の表には、Marketing Operations における管理タスクが記述されています。

「資料」 列には、タスクに関して詳しい情報が記載されている資料の名前が含まれています。

表 4. Marketing Operations の構成および使用

タスク	資料
- ユーザー用にシステムをセットアップおよび構成する - セキュリティ設定の調整 - テーブルのマッピング、およびオファー・テンプレートとカスタム属性の定義 - ユーティリティの実行およびメンテナンスの実行	IBM Marketing Operations 管理者ガイド
- マーケティング・キャンペーンの作成と配置 - キャンペーン結果の分析	IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド

以下の表には、Marketing Operations のオンライン・ヘルプおよび PDF の取得に関する情報が含まれています。「説明」列には、オンライン・ヘルプの開き方および Marketing Operations の文書へのアクセス方法が説明されています。

表 5. ヘルプの入手

タスク	説明
オンライン・ヘルプを開く	「ヘルプ」>「このページのヘルプ」を選択して、コンテキスト・ヘルプ・トピックを開きます。 - ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックすると、ヘルプ全体が表示されます。 オンラインのコンテキスト・ヘルプを表示するには、Web アクセスが必要です。オフライン資料として IBM Knowledge Center をローカルで利用する方法、およびインストールする方法については、IBM サポートにお問い合わせください。
PDF の取得	以下のいずれかの方法に従います: 「ヘルプ」>「製品資料」を選択すると、Marketing Operations PDF を利用できます。 - 利用可能なすべての資料へアクセスするには、「ヘルプ」>「IBM Marketing Software Suite のすべての資料」を選択します。
IBM Knowledge Center にアクセスするには、「ヘルプ」>「この製品のサポート (Support for this product)」を選択します。	IBM Knowledge Center にアクセスするには、「ヘルプ」>「この製品のサポート (Support for this product)」を選択します。
サポートを受ける	http://www.ibm.com/support へアクセスし、「Support & downloads」をクリックして IBM サポート・ポータルへアクセスします。

第 2 章 Marketing Operations アップグレードの計画

Marketing Operations 10.1 バージョンへのアップグレードを行うには、まずどのバージョンからアップグレードするのかが確認する必要があります。アップグレードのシナリオは、Marketing Operations の現行バージョンに基づいています。

Marketing Operations をアップグレードする場合は以下のガイドラインを使用します。

表 6. Marketing Operations 10.1 でサポートされるアップグレード・パス

ソース・バージョン	アップグレード・パス
7.x および 8.6.x より前	以下の手順を実行して、バージョン 10.1 にアップグレードします。 1. インストール済み環境を Marketing Operations バージョン 8.6.0 にアップグレードします。 バージョン 8.6.0 へのアップグレードについては、「IBM Marketing Operations 8.6 インストール・ガイド」を参照してください。 2. Marketing Operations バージョン 10.0 にアップグレードします。 バージョン 10.0 へのアップグレードについては、IBM Marketing Operations 10.0 アップグレード・ガイド を参照してください。 3. 本書のステップに従って、Marketing Operations バージョン 10.1 にアップグレードします。
バージョン 8.6.x および 9.x.x	以下の手順を実行して、バージョン 10.1 にアップグレードします。 1. Marketing Operations バージョン 10.0 にアップグレードします。 バージョン 10.0 へのアップグレードについては、IBM Marketing Operations 10.0 アップグレード・ガイド を参照してください。 2. 本書の説明に従って、Marketing Operations バージョン 10.1 にアップグレードします。
10.0.x.x バージョン	本書の説明に従って、10.1 に直接アップグレードできます。

前提条件

IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

Opportunity Detect を DB2 データベースに接続するには、クライアント・マシン上の DB2 インストール済み環境の /home/db2inst1/include ディレクトリーにインストール・ヘッダー・ファイルが含まれている必要があります。インストール済

み環境にヘッダー・ファイルを組み込むには、DB2 のインストール時に「カスタム・インストール」オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」機能を選択します。

DB2 要件

Opportunity Detect を DB2 データベースに接続するには、クライアント・マシン上の DB2 インストール済み環境の `home/db2inst1/include` ディレクトリーにインストール・ヘッダーが含まれている必要があります。インストール済み環境にヘッダー・ファイルを組み込むには、DB2 のインストール時に「カスタム・インストール」オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」機能を選択します。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM Marketing Software 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザ制限に準拠するためです。

JVM 要件

スイート内の IBM Marketing Software アプリケーションは、専用の Java™ 仮想マシン (JVM) に配置しなければなりません。IBM Marketing Software 製品は、Web アプリケーション・サーバーによって使用される JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM Marketing Software 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere®ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM Marketing Software 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザ設定

ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーで Web ページをキャッシュしない。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理アクセス権限
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM Marketing Software コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限

- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限
- インストール・ディレクトリーやバックアップ・ディレクトリー (アップグレードを行う場合) など、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限
- インストーラーを実行するための適切な読み取り、書き込み、実行権限

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、`rwxr-xr-x`) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM Marketing Software 製品をインストールするコンピューターに **JAVA_HOME** 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。システム要件について詳しくは、「*IBM Marketing Software Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM Marketing Software インストーラーを実行する前に、その **JAVA_HOME** 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、**JAVA_HOME** 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。
- UNIX: 端末で、**export JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。

IBM Marketing Software インストーラーは、IBM Marketing Software インストール環境の最上位ディレクトリーに JRE をインストールします。個々の IBM Marketing Software アプリケーションのインストーラーは、JRE をインストールしません。その代わりに、IBM Marketing Software インストーラーによってインストールされた JRE の場所を指定します。すべてのインストールが完了した後に環境変数を再設定することができます。

サポートされる JRE について詳しくは、「*IBM Marketing Software Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

Marketing Platform の要件

IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードする前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードする必要があります。一緒に機能する製品のグループごとに、Marketing Platform を 1 回だけインストールまたはアップグレードする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョンが Marketing Platform に登録されていない場合、インストールを続行する前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードすることを求めるメ

ッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページにいずれかのプロパティを設定するには、その前に、Marketing Platform がデプロイされ、稼働していなければなりません。

すべての IBM Marketing Software 製品のアップグレード前提条件

シームレスなアップグレードを実現するため、Marketing Operations をアップグレードする前に、必要なすべての権限、オペレーティング・システム、および知識を準備します。

以前のインストールによって生成された応答ファイルの削除

バージョン 8.6.0 より前のバージョンからアップグレードする場合、以前の Marketing Operations インストールで生成された応答ファイルを削除する必要があります。installations. 古い応答ファイルは 8.6.0 以降のインストーラーとの互換性がありません。

以前の応答ファイルを削除しないと、インストーラーの実行時にインストーラー・フィールドに正しくないデータが事前に取り込まれていたり、あるいは、インストーラーによっていくつかのファイルがインストールされなかったり、構成ステップがスキップされたりする可能性があります。

IBM 応答ファイルには `installer.properties` という名前が付いています。

各製品の応答ファイルには、`installer_製品バージョン.properties` という名前が付けられています。

インストーラーは、インストール中に指定したディレクトリーに応答ファイルを作成します。デフォルトの場所は、ユーザーのホーム・ディレクトリーです。

UNIX の場合のユーザー・アカウント要件

UNIX では、製品をインストールしたユーザー・アカウントでアップグレードを完了する必要があります。そうしない場合、インストーラーは以前のインストールの検出に失敗します。

32 ビットから 64 ビットへのバージョンアップ

Marketing Operations を 32 ビットから 64 ビットへ変更する場合、必ず以下のタスクを完了してください。

- 製品データ・ソース用のデータベース・クライアント・ライブラリーが 64 ビットであることを確認します。
- 関連するすべてのライブラリー・パス、例えば、開始スクリプトまたは環境スクリプトが 64 ビット・バージョンのデータベース・ドライバーを正しく参照していることを確認します。

クリーンアップのためのデータベース照会の実行

Marketing Operations をアップグレードする前にデータベース照会を実行して、重複するプロジェクト要求 ID があれば削除します。

Marketing Operations のアップグレードの成功を確実にするため、データベース内で照会を実行し、この照会によって戻された重複している結果をすべて見つけて削除します。

以下のステップを実行して、データベース照会を実行します。

1. Marketing Operations システム・テーブルを保持するデータベース・コンソールを開きます。
2. 以下の照会を入力します。

```
SELECT proj_request_id, count(proj_request_id) num
FROM uap_projects
WHERE proj_request_id in (SELECT project_id FROM uap_projects WHERE
state_code = 'ACCEPTED')
group by proj_request_id
having count(proj_request_id) > 1"
```
3. この照会は重複するプロジェクト要求 ID を戻します。結果を分析して、重複している行のうちどちらを使用していてどちらを削除できるのかを判別します。削除するレコードを決定する参考にするため、uap_projects_last_mod_date 表を見たり参照テーブルのデータを表示したりできます。行を削除するには、データベース上で削除照会を実行します。重複している行が削除されないと、アップグレードが失敗する場合があります。

エラー・ログおよび警告メッセージ

アップグレードの際、システムはプロセス中に生成されたメッセージを記録します。アップグレード中に発生した情報またはエラー・メッセージを見るには、ログ・ファイルを参照してください。

参照情報として、それらのメッセージが含まれるログ・ファイルは以下のファイルおよびデータベース表にあります。

- <IBM_IMS_Home>/IBM_IMS_Installer_Install<date_time>.log
- <MarketingOperations_Home>/MarketingOperations_Install_<date_time>.log
- <Platform_Home>/Platform_Install<date_time>.log
- <USER_HOME>/IBM_IMS_Installer_stdout.log
- <USER_HOME>/IBM_IMS_Installer_stderr.log
- <USER_HOME>/Platform_stdout.log
- <USER_HOME>/Platform_stderr.log
- <USER_HOME>/MarketingOperations_stdout.log
- <USER_HOME>/MarketingOperations_stderr.log

既存のキャンペーン・プロジェクトまたは要求でのアップグレード

Campaign と統合された Marketing Operations システムをアップグレードする場合、既存のキャンペーン・プロジェクトに対応するリンクされたキャンペーンがない場合、Marketing Operations へアップグレードする前にリンクされたキャンペーンを作成します。同様に、キャンペーン・プロジェクト用の既存のプロジェクト要求がある場合は、Marketing Operations にアップグレードする前に、要求を受け入れるか、または拒否してください。

アップグレード前にリンクしない場合、システムのアップグレード後にそれらのプロジェクト用にキャンペーンの作成を試みたり、または要求を受け入れたりする場合に、キャンペーンが正しく Marketing Operations プロジェクトへリンクされません。

Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート

Marketing Operations のインストールに必要な Marketing Operations データベースおよび他の IBM Marketing Software 製品についての情報を集めるには、Marketing Operations インストール用ワークシートを使用します。

表 7. データ・ソース情報ワークシート

項目	値
データ・ソース・タイプ	
データ・ソース名	
データ・ソースのアカウント・ユーザー名	
データ・ソースのアカウント・パスワード	
JNDI 名	plands
JDBC ドライバーへのパス	

第 3 章 Marketing Operations をアップグレードするには

Marketing Operations をアップグレードするには、既存のインストール済み環境をバックアップし、Marketing Platform がアップグレードされて稼働していることを確認し、インストーラーを実行し、トリガー手順があればすべて復元し、アップグレードされたアプリケーションを配置し、次にいくつかの配置後の処理を実行します。

Marketing Operations の以前のバージョンは Affinium Plan という名前でした。本書では、すべてのバージョンを Marketing Operations と呼んでいます。

アップグレードの前にシステムをバックアップする

アップグレード・プロセスを始める前にシステムのバックアップを取ります。アップグレードが失敗した場合に、直近バージョンの Marketing Operations を復元できます。

システムをバックアップするには、以下の手順を完了します。

1. 既存のバージョンの Marketing Operations を配置解除します。
2. 既存のインストール・フォルダー内のすべてのファイルおよびディレクトリーをバックアップします。

注: サンプル・トリガー手順または `procedure_plugins.xml` ファイルを変更していた場合、トリガー手順が失われないために、アップグレード後にバックアップからファイルを復元する必要があります。復元する必要があるファイルは、`/devkits/integration/examples/src/procedure` フォルダー内にあります。

3. Marketing Operations システム・テーブルを保持するデータベースをバックアップします。

インストーラーの実行および構成プロパティーの更新

インストーラーを実行する前に、Marketing Platform データベースおよび Marketing Operations データベースについて、適切なデータベース接続情報を保有していることを確認してください。

インストーラーを実行して構成プロパティーを更新するには、以下の手順を完了します。

1. IBM インストーラーを実行し、使用するインストール・ディレクトリーとして、既存のインストール・ディレクトリーを指定します。詳しくは、2 ページの『インストーラーの機能』を参照してください。

インストーラーは、以前のバージョンがインストールされていることを検出し、アップグレード・モードで実行されます。

2. インストール・ウィザードの指示に従います。

注: インストーラーが自動的にデータベースをアップグレードできることに注意してください。会社の方針が、この機能の使用をユーザーに許可していない場合は、ソフトウェアのインストール後、Web アプリケーションを配置する前に、「手動データベース・セットアップ」オプションを選択してから手動でスクリプトを実行します。

3. インストーラーが完了したら、アップグレードされた Marketing Platform アプリケーションにログインします。「設定」>「構成」を選択します。Marketing Operations カテゴリー内のプロパティーを確認し、現行バージョンの Marketing Operations で新たに導入されたパラメーターを設定または変更してください。

データベースの手動アップグレード

IBM インストーラーは、アップグレード・プロセス中に、Marketing Operations データベースをアップグレードできます。会社の方針でデータベースのアップグレードが許可されない場合は、データベース・セットアップ・ユーティリティ、`umodbsetup` を使用してテーブルを手動でアップグレードできます。

`umodbsetup` ユーティリティにより、以下のアクションのいずれかを実行します。

- オプション 1: Marketing Operations データベースでシステム・テーブルをアップグレードし、必要なデフォルト・データをシステム・テーブルに追加します。
- オプション 2: データベースをアップグレードしてデータを追加するためのスクリプトをファイルに出力します (このファイルは、後で、ユーザーまたはデータベース管理者がユーザーのデータベース・クライアントで実行できます)。

環境変数の構成

`umodbsetup` ユーティリティを実行する前に、以下の手順を実行して、環境変数を適切に構成します。

1. `<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools%bin` ディレクトリーで、`setenv` ファイルを見つけ、テキスト・エディターで開きます。
2. `JAVA_HOME` 変数が正しい Java インストール・ディレクトリーを示しており、`DBDRIVER_CLASSPATH` 変数の最初の項目が JDBC ドライバーであることを確認します。環境変数の設定について詳しくは、「IBM Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。
3. ファイルを保存して閉じます。
4. `<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools%bin` ディレクトリーで、`umo_jdbc.properties` ファイルを見つけて開きます。
5. 以下のパラメーターの値を設定します。
 - `umo_driver.classname`
 - `umo_data_source.url`
 - `umo_data_source.login`
 - `umo_data_source.password`
6. ファイルを保存して閉じます。

データベース・セットアップ・ユーティリティ

コマンド・プロンプトまたは UNIX シェルで、

<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools¥bin ディレクトリーに移動します。umodbsetup ユーティリティを実行し、自身の状況に必要なパラメーターに適切な入力データを指定してください。

例えば、次のコマンドは、アップグレードを実行し、ロケールを en_US に設定して、ロギング・レベルを medium に設定します。

```
./umodbsetup.sh -t upgrade -L en_US -l medium
```

ユーティリティについて指定できるすべての変数の説明は以下のとおりです。

表 8. umodbsetup.sh ユーティリティの変数

変数	説明
-b	アップグレードの場合のみ。アップグレードしようとしているデータベースの基本バージョンを識別します。 デフォルトで、ユーティリティは、アップグレードしようとしているデータベースのバージョンを検出します。ただし、以前にデータベースをアップグレードしようとしたときに何らかの形で失敗していた場合、アップグレードが失敗してもバージョンが更新されていることがあります。問題を修正して再びユーティリティを実行するときには、この変数を -f 変数と共に使用して、正しい基本バージョンを指定してください。 例: -f -b 9.0.0.0
-f	アップグレードの場合のみ。データベースで検出される基本バージョンをオーバーライドして、-b 変数で指定された基本バージョンがユーティリティで使用されるようにします。-b 変数の説明を参照してください。
-h	ユーティリティのヘルプを表示します。
-l	umodbsetup ユーティリティによって実行されるアクションからの出力を umo-tools.log ファイルに記録します。このファイルは <IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools¥logs ディレクトリーにあります。この変数はロギング・レベルを指定します。 ロギング・レベルは、high、medium、または low に設定できます。
-L	インストールのデフォルト・ロケールを設定します。例えば、ドイツ語版のインストールでは -L de_DE を使用してください。 ロケールについて有効な入力値としては、de_DE、en_GB、en_US、es_ES、fr_FR、it_IT、ja_JP、ko_KR、pt_BR、ru_RU、zh_CN があります。
-m	スクリプトを <IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools ディレクトリー内のファイルに出力します。このファイルは後で手動で実行することができます。このオプションは、データベース・クライアント・アプリケーションからスクリプトを実行する必要がある場合に使用してください。この変数を使用すると、スクリプトが umodbsetup ツールによって実行されなくなります。
-t	データベース・インストールのタイプ。有効な値は full と upgrade です。例えば、-t full とします。
-v	冗長。

データベース・スクリプトの手動での実行 (必要な場合)

-m 変数を使用してスクリプトを出力し、データベース・クライアント・アプリケーションから実行できるようにしてある場合は、ここで、そのスクリプトを実行してください。

システム・テーブルをアップグレードしてデータを追加する前に plan.war ファイルを配置しないでください。

アップグレードされた Web アプリケーションの配置とアップグレード・プロセスの実行

アップグレードされた Web アプリケーションを Web アプリケーション・サーバーへ配置する必要があります。Web アプリケーションを配置した後で、アップグレード・プロセスを開始できます。

注: Marketing Operations が Campaign と統合されている場合、続行する前に、Campaign がアップグレードされており実行中であることを確認してください。

1. 19 ページの『第 4 章 概要』で説明するように、Marketing Operations をご使用の Web アプリケーション・サーバーに配置します。
2. アプリケーション・サーバーを再始動します。
3. アプリケーションが稼働しているときに、ログインして、アップグレードが正しく行われたことを確認します。「設定」>「構成」を選択し、左側のリストに「Marketing Operations」があることを確認します。その後、「Marketing Operations」セクションを展開して、「umoConfiguration」カテゴリがリストに含まれていることを確認します。
4. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
5. スクロールダウンして、「Marketing Operations のアップグレード」をクリックします。アップグレード・プロセスのリストが表示されます。これらのプロセスは、データベース表と、サイトに特定のカスタマイズを保管するファイルとをアップグレードすることにより、アプリケーションの構成を変更します。

アップグレード・プロセスについて詳しくは、そのプロセスの横にある「ヘルプ」をクリックしてください。

6. 選択したプロセスを実行するには、「アップグレード」をクリックします。

Marketing Operations アップグレードの検証

Marketing Operations をアップグレードする前に、Marketing Platform をアップグレードおよび配置する必要があります。

アップグレードを検証するには、以下のステップを完了します。

1. WAS_Profile_Home/logs/server1 ディレクトリーのログ・ファイルで、エラー・メッセージがあるかどうかを確認します。メッセージ「UAPContext Init failed」は、アップグレードが正常に完了しなかったことを示しています。
2. Internet Explorer またはサポートされる他のブラウザを使用して、IBM Marketing Software URL にアクセスします。

3. 資産ファイルなどの、さまざまな Marketing Operations フィーチャーに移動します。
4. 計画、プログラム、プロジェクト、独自のカスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプなど、さまざまな Marketing Operations オブジェクトのインスタンスを作成します。
5. 「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」を選択してから、「テンプレートの検証」をクリックします。
6. インストール済み環境で Marketing Operations がアプリケーション・プログラミング・インターフェースによってカスタマイズされている場合、そのカスタマイズが互換性問題の影響を受けないことを確認してください。
7. トリガー手順を使用する場合は、それらを復元します。

トリガー手順の復元

Marketing Operations アプリケーションをアップグレードした後で、トリガー手順を復元できます。

トリガー手順を復元するには、以下の手順を完了します。

1. 以前に作成したバックアップから、手順と `procedure_plugins.xml` ファイルを復元します。それらをファイル用の以下のデフォルト・ロケーションに入れます。

```
<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%devkits%integration%examples%  
src%procedure
```

2. 必要の場合は、Marketing Operations インストール済み環境下の
`<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%devkits%integration%
examples%build` ディレクトリーにある `build` ファイルを使用して、統合サービス手順を再ビルドします。
3. 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「attachmentFolders」ページで、以下のパラメーターを更新します。前のステップで作成したディレクトリーを指すように、値を設定します。

- **graphicalRefUploadDir** を

```
<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%graphicalrefimages
```

 に設定します。

- **templateImageDir** を `<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%images` に設定します。

- **recentDataDir** を `<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%recentdata` に設定します。

- **workingAreaDir** を `<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>%umotemp` に設定します。

クラスター環境での **Marketing Operations** のアップグレード

クラスター環境で Marketing Operations の複数のインスタンスをアップグレードする場合には、以下のガイドラインを使用してください。

- Marketing Operations のすべてのインスタンスを配置解除します。
- この章の指示に従ってアップグレードします。
- ご使用の Web アプリケーション・サーバーの自動配置機能を使用して、クラスター内の EAR ファイルを配置します。

クラスター環境に Marketing Operations をインストールする場合の考慮事項については、「*IBM Marketing Operations* インストール・ガイド」を参照してください。

第 4 章 概要

Marketing Operations を WebSphere および WebLogic に配置する際の一般ガイドラインがあります。

インストーラーを実行した後に EAR ファイルを作成して他の IBM 製品をその EAR ファイルに含めた場合は、この章に記載されているガイドラインに従うほか、EAR ファイルに含めた製品の個々のインストール・ガイドに記載されているすべての配置ガイドラインに従う必要があります。

ここでは、読者が Web アプリケーション・サーバーの使用方法を理解しているものと想定しています。「管理」コンソールの使用方法などに関する詳細は、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

WebSphere での Marketing Operations の配置

WebSphere Application Server (WAS) に、WAR ファイルまたは EAR ファイルから Marketing Operations アプリケーションを配置できます。

WebSphere に Marketing Operations を配置する前に以下の点を考慮してください。

- ご使用のバージョンの WebSphere が、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」の資料で説明されている要件 (必要なフィックスパックやアップグレードを含む) を満たしていることを検証してください。
- WebSphere Integrated Solutions コンソールを使用して、WebSphere Application Server を構成します。以下のステップでは、個々の制御を設定するためのガイドラインを示します。

注: WebSphere Application Server のバージョンによって、ユーザー・インターフェース制御が表示される順序が異なり、別のラベルが使用されていることもあります。

以下の手順を実行して Marketing Operations の配置のための環境をセットアップします。

1. カスタム・プロパティを定義します。「アプリケーション・サーバー」 > 「<servers>」 > 「Web コンテナ」 > 「カスタム・プロパティ」フォームで、「新規」をクリックして以下の値を入力します。
 - 名前: com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility
 - 値: true
2. JDBC プロバイダーを作成します。「リソース」 > 「JDBC」 > 「JDBC プロバイダー」フォームで、「新規」をクリックします。以下のフィールドも含めて、「新規 JDBC プロバイダーの作成」ウィザードを完了します。

インストーラーを使用して構成する場合、Web アプリケーション・サーバーでのデータ・ソースの作成を省略できます。

- a. 「実装タイプ」で「接続プール」データ・ソースを選択します。
 - b. サーバー上のデータベース・ドライバ JAR ファイルのネイティブ・ライブラリー・パスを指定します。例えば、db2jcc4.jar/ojdbc6.jar/sqljdbc4.jar。
3. データ・ソースを作成します。「リソース」 > 「JDBC」 > 「データ・ソース」フォームで、「新規」をクリックします。以下の操作を実行して、データ・ソースの作成ウィザードを完了します。

インストーラーを使用して構成する場合、Web アプリケーション・サーバーでのデータ・ソースの作成を省略できます。

- a. データ・ソース名を指定します。
 - b. 「JNDI 名」に plands と入力します。
 - c. ステップ 2 で作成した JDBC プロバイダーを選択します。
 - d. データベース名およびサーバー名を指定します。
 - e. 「マッピング構成」別名で **WSLogin** を選択します。
4. データ・ソースのカスタム・プロパティを定義します。「JDBC プロバイダー」 > 「<database provider>」 > 「データ・ソース」 > 「カスタム・プロパティ」フォームで、「新規」をクリックして、以下の 2 つのプロパティを追加します。
- 名前: user
 - 値: <user_name>
 - 名前: password
 - 値: <password>

Marketing Operations システム・テーブルが DB2® 内にある場合は、resultSetHoldability プロパティを見つけ、その値を 1 に設定します。このプロパティが存在しない場合は、追加してください。

5. JVM を構成します。「アプリケーション・サーバー」 > 「<server>」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」フォームで、「クラスパス」を見つけ、以下の項目をスペースで区切って「汎用 JVM 引数」として追加します。
- -Dplan.home=<IBM_IMS_Home>%<MarketingOperations_Home>
- ここで、<IBM_IMS_Home> は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであり、<MarketingOperations_Home> は Marketing Operations がインストールされているディレクトリーへのパスです。通常、このパスは IBM_IMS/MarketingOperations です。
- -Dclient.encoding.override=UTF-8
6. WebSphere Application Server の JSP コンパイル・レベルを 17 に設定します。

WAR または EAR ファイルの配置

新規エンタープライズ・アプリケーションを配置する場合、WebSphere Integrated Solutions Console に一連のフォームが表示されます。以下のステップでは、それらのフォームで個々の制御を設定するためのガイドラインを示します。WebSphere の

バージョンによって、制御が表示される順序が異なる可能性があります。また、別のラベルが使用されている場合もあります。

以下の手順を実行して、WAR または EAR ファイルを配置します。

1. 「アプリケーション」 > 「新規アプリケーション」 > 「新規エンタープライズ・アプリケーション (New Enterprise Application)」を選択します。
2. 初期フォームで、「リモート」ファイル・システムを選択してから、「参照」で plan.war ファイルまたは EAR ファイルを指定します。
3. 次の「アプリケーション・インストールの準備」ウィンドウで、以下のようになります。
 - 「詳細」を選択します。
 - 「デフォルト・バインディングの生成」を選択します。
 - 「既存バインディングをオーバーライドする」を選択します。
4. 「インストール・オプションの選択」ウィンドウで以下の操作を完了します。
 - 「**JavaServer Pages** ファイルのプリコンパイル」を選択します。
 - 「アプリケーション名」に plan と入力します。
 - 「**Web** および **EJB** モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライドする」を選択します。
 - 「再ロード間隔 (秒)」では、4 などの整数を入力します。
5. 「サーバーにモジュールをマップ」ウィンドウで、「モジュール」を選択します。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイルを選択してください。
6. 「JSP をコンパイルするためのオプションを指定」ウィンドウで、「**Web** モジュール」を選択します。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイルを選択してください。
7. 「**JDK** ソース・レベル」を 17 に設定します。
8. 「Web モジュールの JSP 再ロード・オプション」フォームで、「**JSP**: クラスの再ロードを有効にする」を選択し、「**JSP**: 再ロード間隔 (秒)」に 5 と入力します。
9. 「共有ライブラリーをマップ」ウィンドウで、「アプリケーション」および「モジュール」を選択します。
10. 「共有ライブラリーの関係をマップ」ウィンドウで、「アプリケーション」および「モジュール」を選択します。
11. 「リソース参照をリソースにマップ」ウィンドウでモジュールを選択し、「ターゲット・リソース **JNDI** 名」に plands と入力します。
12. 「Web モジュールのコンテキスト・ルートをマップ」ウィンドウで、「コンテキスト・ルート」に /plan と入力します。
13. 設定を確認して保存します。

クラス・ローダー・ポリシーの定義

クラス・ローダー・ポリシーは、WAS でアプリケーションを構成する方法を定義します。Marketing Operations を配置する前に WAS のデフォルトの設定をいくつか変更する必要があります。

以下の手順を完了して、クラス・ローダー・ポリシーを定義します。

1. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「**plan**」 > 「クラス・ローダー」で、「**Web** および **EJB** モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライドする」を選択します。
2. 「クラス・ローダー」順序では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
3. 「**WAR** クラス・ローダーのポリシー (**WAR class loader policy**)」で、「アプリケーション用の単一のクラス・ローダー (**Single class loader for application**)」を選択します。
4. 「適用」および「設定の保存」をクリックします。

Cookie の設定の定義

「**Websphere** エンタープライズ・アプリケーション」の「セッション管理」オプションを使用し、Cookie の設定を定義してセットする必要があります。

以下の手順を完了して、Cookie の設定を定義します。

1. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「**plan**」 > 「セッション管理」へ移動します。
2. 「セッション管理のオーバーライド」を選択します。
3. 「**Cookie** を使用可能にする」を選択します。
4. 「適用」をクリックして、「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「**plan**」 > 「セッション管理」 > 「**Cookie**」に移動します。
5. Marketing Operations の「**Cookie** 名」を JSESSIONID から UMOSESSIONID に変更します。
6. 「適用」および「設定の保存」をクリックします。

EAR モジュール設定の定義

EAR ファイルを配置した場合は、EAR ファイルに含まれている個々の WAR ファイルの設定を定義する必要があります。

以下の手順を完了して、EAR ファイル・モジュールの設定を定義します。

1. 「エンタープライズ・アプリケーション」に移動して、EAR ファイルを選択します。
2. 「モジュールの管理」フォームで、WAR ファイルの 1 つ (例えば、MktOps.war) を選択します。
3. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「**EAR**」 > 「モジュールの管理」 > 「**WAR**」フォームで以下の手順を実行します。
 - a. 「開始ウェイト」を 10000 に設定します。
 - b. 「クラス・ローダー順序」では、「最初にアプリケーション・クラス・ローダーをロードしたクラス」を選択します。
4. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「**EAR**」 > 「モジュールの管理」 > 「**WAR**」 > 「セッション管理」で、「**Cookie** を使用可能にする」を選択します。

5. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「**EAR**」 > 「モジュールの管理」 > 「**WAR**」 > 「セッション管理」 > 「**Cookie**」で以下の手順を実行します。
 - a. 「**Cookie** 名」を CMPJSESSIONID に設定します。
 - b. 「**Cookie** 最大存続期間」では、「現行のブラウザ・セッション」を選択します。
6. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「**EAR**」 > 「モジュールの管理」 > 「**WAR**」 > 「セッション管理」で以下の情報を入力します。
 - a. 「オーバーフローの許可」を選択します。
 - b. 「メモリー内の最大セッション・カウント」に 1000 と入力します。
 - c. 「セッション・タイムアウト」で「タイムアウトの設定」を選択し、30 と入力します。
7. 他の WAR ファイル (unica.war や plan.war など) のそれぞれについても同じ設定を定義します。

注: Campaign.war ファイルが EAR ファイル内にも存在し、Marketing Operations と Campaign とを統合する計画の場合、Campaign.war ファイルに対して同じ設定を定義してください。

WebLogic での Marketing Operations の配置

WebLogic での Marketing Operations の配置については、以下のガイドラインを使用してください。

- IBM Marketing Software 製品は、WebLogic によって使用される JVM をカスタマイズします。JVM 関連のエラーが発生した場合に、IBM Marketing Software 製品専用の WebLogic インスタンスを作成することができます。
- 同一の WebLogic ドメインに複数の Marketing Operations アプリケーションをインストールしないでください。
- 始動スクリプト (startWebLogic.cmd) で JAVA_VENDOR 変数を調べて、使用する WebLogic ドメイン用に選択された Software Development Kit (SDK) が Sun SDK であることを確認します。その変数は、JAVA_VENDOR=Sun に設定されている必要があります。それが JAVA_VENDOR=BEA に設定されている場合、JRockit が選択されています。JRockit はサポートされていません。選択されている SDK を変更する方法については、WebLogic の文書を参照してください。

WebLogic へ Marketing Operations を配置するには以下の手順を実行します。

1. ご使用のオペレーティング・システムが AIX® である場合は、Marketing Operations の WAR ファイルを解凍し、xercesImpl.jar ファイルを WEB_INF/lib ディレクトリーから削除して、WAR ファイルを再作成します。インストーラーによって製品が EAR ファイルにまとめられている場合は、まず、そのファイルを解凍して WAR ファイルを取得してから、EAR ファイルを再作成する必要があります。
2. IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の資料を見直して、他にも要件があるかどうかを確認します。

3. WebLogic ドメイン・ディレクトリーの下の bin ディレクトリーで、`setDomainEnv` スクリプトを見つけ、テキスト・エディターで開きます。スクロールして `JAVA_OPTIONS` プロパティを表示し、次の項目を追加します。項目を区切るにはスペースを使用します。
 - `-Dplan.home=<IBM_IMS_Home>¥<MarketingOperations_Home>`

ここで、`<IBM_IMS_Home>` は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであり、`<MarketingOperations_Home>` は Marketing Operations がインストールされているディレクトリーへのパスです。通常、このディレクトリーは `IBM_IMS/MarketingOperations` です。
 - `-Dfile.encoding=UTF-8`
4. ファイルを保存して閉じます。
5. WebLogic を再始動します。
6. Marketing Operations を Web アプリケーション・モジュールとして配置します。 `plan.war` を選択します。
7. 配置した Web アプリケーションを開始します。

セキュリティ強化のための追加構成

このセクションの手順では、Web アプリケーション・サーバーの追加構成について説明します。これらはオプションの構成ですが、実行するとセキュリティを強化できます。

X-Powered-By フラグの無効化

組織で、ヘッダー変数内の X-Powered-By フラグがセキュリティ・リスクになることが懸念される場合、次の手順を使用してこのフラグを無効にすることができます。

1. WebLogic を使用している場合、管理コンソールの「`domainName`」>「構成」>「Web アプリケーション」で、「X-Powered-By ヘッダー」を「X-Powered-By ヘッダーを送信しない (X-Powered-By Header will not be sent)」に設定します。
2. WebSphere を使用している場合は、以下の手順を実行します。
 - a. WebSphere 管理コンソールで、「サーバー」>「サーバー・タイプ」>「WebSphere Application Server」>「`server_name`」>「Web コンテナ設定」>「Web コンテナ」に移動します。
 - b. 「追加プロパティ」で、「カスタム・プロパティ」を選択します。
 - c. 「カスタム・プロパティ」ページで、「新規」をクリックします。
 - d. 「設定」ページで、`com.ibm.ws.webcontainer.disableXPoweredBy` という名前のカスタム・プロパティを作成し、値を `false` に設定します。
 - e. 「適用」または「OK」をクリックします。
 - f. コンソール・タスクバーの「保存」をクリックして、構成の変更を保存します。
 - g. サーバーを再始動します。

制限された **Cookie** パスの構成

Web アプリケーション・サーバーでは、セキュリティを強化するために Cookie アクセスを特定のアプリケーションに制限できます。制限しない場合、Cookie は、配置されたすべてのアプリケーションで有効になります。

1. WebLogic を使用している場合は、以下の手順を実行します。
 - a. 制限された Cookie パスを追加する WAR パッケージまたは EAR パッケージから `weblogic.xml` ファイルを抽出します。
 - b. 以下のコードを `weblogic.xml` ファイルに追加します。この場合、*context-path* は、配置されているアプリケーションのコンテキスト・パスです。IBM Marketing Software アプリケーションの場合、コンテキスト・パスは、通常、`/unica` です。

```
<session-descriptor>
  <session-param>
    <param-name>CookiePath</param-name>
    <param-value>/context-path</param-value>
  </session-param>
</session-descriptor>
```

- c. WAR ファイルまたは EAR ファイルを再ビルドします。
2. WebSphere を使用している場合は、以下の手順を実行します。
 - a. WebSphere 管理コンソールで、「セッション・マネージャー」>「**Cookie**」タブに移動します。
 - b. 「**Cookie** パス」にアプリケーションのコンテキスト・パスを設定します。

IBM Marketing Software アプリケーションの場合、コンテキスト・パスは、通常、`/unica` です。

第 5 章 Marketing Operations のアンインストール

Marketing Operations アンインストーラーを実行して、Marketing Operations をアンインストールします。Marketing Operations アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

IBM Marketing Software 製品をインストールする際、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに組み込まれます。`Product` は、IBM 製品の名前です。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストへのエントリーの追加も行われます。

アンインストーラーを実行する代わりにインストール・ディレクトリーからファイルを手動で削除すると、後で IBM 製品を同じ場所に再インストールする場合にインストールが不完全になってしまう可能性があります。製品をアンインストールしても、そのデータベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルはいずれも削除されません。

注: UNIX の場合、Marketing Operations をインストールしたものと同一ユーザー・アカウントがアンインストーラーを実行する必要があります。

1. Marketing Operations Web アプリケーションを配置した場合、WebSphere または WebLogic から Web アプリケーションを配置解除します。
2. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします。
3. Marketing Operations に関連するプロセスを停止します。
4. 製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
5. 以下のいずれかのステップを実行して Marketing Operations をアンインストールします。
 - `Uninstall_Product` ディレクトリー内にある Marketing Operations アンインストーラーをクリックします。アンインストーラーは、Marketing Operations をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Marketing Operations をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

`Uninstall_Product -i console`

- サイレント・モードを使用して Marketing Operations をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

`Uninstall_Product -i silent`

サイレント・モードを使用して Marketing Operations をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

注: Marketing Operations のアンインストールに関するオプションを指定しなかった場合、Marketing Operations アンインストーラーは、Marketing Operations のインストール時に使用されたモードで実行されます。

第 6 章 configTool

「構成」ページのプロパティと値は、Marketing Platform システム・テーブルに保管されます。configTool ユーティリティを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

configTool をいつ使用するか

configTool は、次のような目的で使用できます。

- Campaign に備わっているパーティションおよびデータ・ソースのテンプレートをインポートする。その後、構成ページを使って、その変更および複製を行うことができます。
- 製品インストーラーがプロパティをデータベースに自動的に追加できない場合に IBM Marketing Software 製品を登録する (その構成プロパティをインポートする)。
- バックアップ用の構成設定の XML バージョンをエクスポートし、IBM Marketing Software の別のインストールにインポートする。
- 「カテゴリの削除 (**Delete Category**)」リンクを持たないカテゴリを削除する。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートします。

重要: このユーティリティは、Marketing Platform システム・テーブル・データベース (構成プロパティとその値が含まれている) の `usm_configuration` テーブルと `usm_configuration_values` テーブルを変更します。最良の結果を得るために、それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。そうすることで、configTool を使ったインポートに失敗した場合に構成を復元することができます。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
```

```
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
```

```
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
```

```
configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]
```

```
configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u  
productName
```

コマンド

```
-d -p "elementPath" [o]
```

構成プロパティ階層内のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認します。 | 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体を登録解除するには、**-u** コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「カテゴリの削除」リンクがないカテゴリを削除するには、**-o** オプションを使用します。

-d を指定した **-vp** コマンドを使用する場合、**configTool** はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]

指定された XML ファイルから構成プロパティとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリのインポート先の親要素へのパスを指定します。**configTool** ユーティリティは、パス内で指定するカテゴリの下にプロパティをインポートします。

カテゴリは最上位の下どのレベルにでも追加することができますが、最上位カテゴリと同じレベルにカテゴリを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。これらの内部名は、「構成」ページに移動して、必要なカテゴリまたはプロパティを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べることによって得ることができます。 | 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

tools/bin ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。相対パスを指定した場合、またはパスを指定しない場合、**configTool** は **tools/bin** ディレクトリーから相対的な場所にあるファイルを最初に探します。

デフォルトでこのコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、**-o** オプションを使用して上書きを強制することができます。

-x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前の XML ファイルに構成プロパティとその設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートすることも、構成プロパティ階層内のパスを指定することによって特定のカテゴリにエクスポートを制限することもできます。

要素パスにはカテゴリおよびプロパティの内部名を使用する必要があります。これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリまたはプロパティを選択して、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。| 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからの相対的なエクスポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は /、Windows の場合は \ または ¥) が含まれていない場合、configTool はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。xml 拡張子を付けない場合、configTool によってそれが追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティのインポートに使用されます。新しい構成プロパティが含まれるフィックスパックを適用し、その後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポートを行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

重要: configTool ユーティリティーを -vp オプションを指定して使用したら、変更が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。tools/bin ディレクトリーに相対する登録ファイルの場所を指定することも、絶対パスを指定することもできます。デフォルトでこのコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強制することができます。productName パラメーターは、上記にリストされている名前のいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

- -r コマンドを使用する際、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして <application> を指定する必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。それらのファイルについては、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タグがあるファイルだけを -r コマンドとともに使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルの名前は Manager_config.xml で、最初のタグは <Suite> です。新規インストールでこのファイルを登録するには、populateDb ユーティリティを使用するか、「IBM Marketing Platform インストール・ガイド」にある説明に従って Marketing Platform インストーラーを再実行します。
- 最初のインストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティを上書きします。

configTool ユーティリティは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。IBM Marketing Software 8.5.0 リリースでは、多くの製品名が変更されました。ただし、configTool によって認識される名前は変更されていません。configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

表 9. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Platform	管理者
Campaign	キャンペーン
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
Opportunity Detect	Detect
IBM SPSS® Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition	SPSS
Digital Analytics	Coremetrics

-u productName

productName によって指定されたアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、そのみで十分です。このプロセスで、製品のすべてのプロパティと構成設定が削除されます。

オプション

-o

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリまたは製品登録 (ノード) を上書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「カテゴリの削除」リンクがないカテゴリ (ノード) を削除することができます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の下の conf ディレクトリーの Product_config.xml という名前のファイルから構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーが完備されている) をエクスポートし、それを partitionTemplate.xml という名前のファイルに保存し、Marketing Platform インストールのデフォルトの tools/bin ディレクトリーに保管します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f  
partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーにある app_config.xml という名前のファイルを使用して、productName という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

```
configTool -u productName
```

第 7 章 IBM Marketing Operations 構成プロパティ

このセクションでは、「設定」>「構成」ページの IBM Marketing Operations 構成プロパティについて説明します。

Marketing Operations

このカテゴリのプロパティは、IBM Marketing Operations インストール済み環境のデフォルトとサポート対象のロケールを指定します。

supportedLocales

説明

IBM Marketing Operations のインストール済み環境で利用できるロケールを指定します。使用しているロケールだけをリストしてください。リストするロケールごとにサーバー上のメモリーが使用されます。使用されるメモリーの量は、テンプレートのサイズと数によって異なります。

初期インストールまたはアップグレード後にロケールを追加する場合は、アップグレード・サブレットを再実行する必要があります。詳しくは、アップグレードの資料を参照してください。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

defaultLocale

説明

IBM Marketing Operations において、Marketing Operations 管理者が特定のユーザーについて明示的にオーバーライドしない限り、すべてのユーザーに対して表示されるサポート・ロケールを指定します。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

Marketing Operations | navigation

このカテゴリのプロパティは、Uniform Resource Identifier、URL、ポートなどのナビゲーション用のオプションを指定します。

welcomePageURI

説明

IBM Marketing Operations 索引ページの Uniform Resource Identifier。
この値は、IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

`affiniumPlan.jsp?cat=projectlist`

projectDetailpageURI

説明

IBM Marketing Operations 詳細設定ページの Uniform Resource Identifier。この値は、IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

ブランク

seedName

説明

IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

type

説明

IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

httpPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーションとの接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

httpsPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーションとのセキュア接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

serverURL

説明

IBM Marketing Operations インストールの URL。HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

ユーザーが Chrome ブラウザーを使用して Marketing Operations にアクセスする場合は、URL に完全修飾ドメイン・ネーム (FQDN) を使用します。FQDN を使用しない場合は、Chrome ブラウザーで製品 URL にアクセスできません。

デフォルト値

`http://<server>:<port>/plan`

注: <server> は小文字にする必要があります。

logoutURL

説明

内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

IBM Marketing Platform は、ユーザーがスイートでログアウト・リンクをクリックしたときに、この値を使用して、それぞれの登録済みアプリケーションのログアウト・ハンドラーを呼び出します。

デフォルト値

`/uapsysservlet?cat=sysmodules&func=logout`

displayName

説明

内部的に使用されます。

デフォルト値

Marketing Operations

Marketing Operations | バージョン情報

このセクションの構成プロパティは、IBM Marketing Operations インストール済み環境に関する情報をリストします。これらのプロパティは編集できません。

displayName

説明

製品の表示名。

値

IBM Marketing Operations

releaseNumber

説明

現在インストールされているリリース。

値

<version>.<release>.<modification>

copyright

説明

著作権の年。

値

<year>

os

説明

IBM Marketing Operations がインストールされているオペレーティング・システム。

値

<operating system and version>

java

説明

Java の現在のバージョン。

値

<version>

support

説明

文書を読み取り、サービス要求を出します。

値

http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request

appServer

説明

IBM Marketing Operations がインストールされているアプリケーション・サーバーのアドレス。

値

<IP address>

otherString

説明

値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations の基本構成についての情報を指定します。

serverType

説明

アプリケーション・サーバー・タイプ。カレンダーのエクスポートに使用されます。

有効な値

WEBLOGIC または WEBSphere

デフォルト値

<server type>

userManagerSyncTime

説明

スケジュール設定された IBM Marketing Platform との同期化の時間間隔 (ミリ秒)。

デフォルト値

10800000 (ミリ秒: 3 時間)

firstMonthInFiscalYear

説明

会計年度が開始する月を設定します。アカウントの「サマリー」タブには、そのアカウントの各会計年度の月別予算情報をリストした表示専用テーブルがあります。このテーブルの最初の月は、このパラメーターによって決まります。

1 月は 0 で表されます。会計年度が 4 月に始まるようにするには、**firstMonthInFiscalYear** を 3 に設定します。

有効な値

0 から 11 の整数

デフォルト値

0

maximumItemsToBeRetainedInRecentVisits

説明

「最近使用した項目」メニューに表示する、最近表示したページへのリンクの最大数。

デフォルト値

10 (リンク)

maxLimitForTitleString

説明

ページ・タイトルに表示できる最大文字数。指定された文字数よりもタイトルが長い場合、IBM Marketing Operations はタイトルを切り取って短くします。

デフォルト値

40 (文字)

maximumLimitForBulkUploadItems

説明

同時にアップロードできる添付ファイルの最大数。

デフォルト値

5 (添付ファイル)

workingDaysCalculation

説明

IBM Marketing Operations が期間を計算する方法を制御します。

有効な値

- bus: 営業日のみ、営業日のみを含みます。休日も週末も含まれません。
- wkd: 営業日 + 週末、営業日と週末を含みます。休日は含まれません。
- off: 営業日 + 休日、すべての営業日と休日を含みます。週末は含まれません。
- すべて: カレンダーのすべての日が含まれます。

デフォルト値

all

validateAllWizardSteps

説明

ユーザーがウィザードを使用してプログラム、プロジェクト、または要求を作成するときに、IBM Marketing Operations によって、現行ページの必須フィールドに値が設定されているかどうか自動的に検証されます。このパラメーターは、ユーザーが「終了」をクリックしたときに、Marketing Operations がすべてのページ (タブ) の必須フィールドを検証するかどうかを制御します。

有効な値

- True: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須フィールドを検査します (ワークフロー、トラッキング、添付ファイルを除く)。必須フィールドがブランクの場合、ウィザードはそのページを開き、エラー・メッセージを表示します。
- False: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須フィールドを検証しません。

デフォルト値

True

enableRevisionHistoryPrompt

説明

ユーザーがプロジェクト、要求、または承認を保存するときに変更コメントを追加するよう求めるプロンプトが出るようにします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

useForecastDatesInTaskCalendar

説明

タスクがカレンダー・ビューに表示されるときに使用される日付のタイプを指定します。

有効な値

- True: 予測/実際の日付を使用してタスクを表示します。
- False: ターゲット日を使用してタスクを表示します。

デフォルト値

False

copyRequestProjectCode

説明

プロジェクト・コード (PID) を要求からプロジェクトに引き継ぐかどうかを制御します。このパラメーターを False に設定した場合、プロジェクトと要求は、異なるコードを使用します。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

projectTemplateMonthlyView

説明

プロジェクト・テンプレートのワークフローで月次ビューが許可されるかどうかを制御します。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

disableAssignmentForUnassignedReviewers

説明

承認のために作業を役割別に割り当てる方法を指定します。

disableAssignmentForUnassignedReviewers パラメーターは、「スタッフ」

タブにある「役割別に作業を割り当て」の、ワークフロー承認における承認者の割り当てに関する動作を制御します。

有効な値

- **True:** 「スタッフ」タブにおいて未割り当てのレビュー担当者は、新しいステップとして承認に追加されません。
 - 追加オプション: 所有者によって割り当てられた既存の承認者で、割り当てられた役割を持たないものは、変更されません。「スタッフ」タブに役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい承認者ステップは追加されません。
 - 置換オプション: 所有者によって割り当てられた既存の承認者で、役割を持たないものは、ブランクに置き換えられます。「スタッフ」タブに役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい承認者ステップは追加されません。
- **False:** 未割り当てのレビュー担当者は、承認に追加されます。
 - 追加オプション: 定義された役割がない所有者割り当てステップが承認に存在する場合は、役割を持たないすべてのレビュー担当者が、レビュー担当者として承認に追加されます。
 - 置換オプション: 承認における既存の承認者は、「スタッフ」タブの未割り当て承認者に置き換えられます。

デフォルト値

False

enableApplicationLevelCaching

説明

アプリケーション・レベルのキャッシングを有効にするかどうかを示します。キャッシング・メッセージのマルチキャストが有効になっていないクラスター環境で最良の結果を得るには、Marketing Operations のアプリケーション・レベルのキャッシングをオフにすることを検討してください。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

customAccessLevelEnabled

説明

カスタム・アクセス・レベル (プロジェクトの役割) を IBM Marketing Operations で使用するかどうかを決定します。

有効な値

- **True:** プロジェクトおよび要求に対するユーザー・アクセスは、オブジェクト・アクセス・レベルおよびカスタム・アクセス・レベル (プロジェクトの役割) に従って評価されます。カスタム・タブのタブ・セキュリティが有効になります

- **False:** プロジェクトおよび要求へのユーザー・アクセスは、オブジェクト・アクセス・レベル (オブジェクトの暗黙の役割) のみに従って評価され、カスタム・タブのタブ・セキュリティは無効になります。

デフォルト値

True

enableUniqueldsAcrossTemplatizableObjects

説明

プログラム、プロジェクト、計画、請求書を含むテンプレートから作成されたすべてのオブジェクトにおいて、固有の内部 ID を使用するかどうかを決定します。

有効な値

- **True** に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクトにおいて固有の内部 ID を使用できます。この構成を使用すると、オブジェクト・タイプが異なる場合でも、同じテーブルをシステムが使用できるようになるため、オブジェクトをまたがるレポート作成が簡単になります。
- **False** に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクトにおいて固有の内部 ID を使用できなくなります。

デフォルト値

True

FMEnabled

説明

財務管理モジュールを有効または無効にします。これにより、製品に「アカウント」、「請求書」、および「予算」のタブが表示されるかどうかが決まります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

FMProjVendorEnabled

説明

プロジェクト明細項目のベンダー列の表示/非表示を指定するためのパラメーター。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

FMPrgmVendorEnabled

説明

プログラム明細項目のベンダー列の表示/非表示を指定するためのパラメーター。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | Approvals

これらのプロパティは、承認に関するオプションを指定します。

specifyDenyReasons

説明

承認を拒否する理由のカスタマイズ可能なリストを有効にします。有効にされると、管理者は「承認拒否理由」リストにオプションを設定してから、拒否理由を各ワークフロー・テンプレートおよびワークフローを定義する各プロジェクト・テンプレートに関連付けます。承認または承認に含まれる項目を拒否するユーザーは、事前定義されたこれらの理由のいずれかを選択する必要があります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

10.0.0.2

approveWithChanges

説明

承認のための「変更付きで承認」オプションを有効にします。これを有効にすると、ユーザーがプロジェクト・テンプレートやプロジェクトで承認をセットアップする際や、スタンドアロンの承認をセットアップする際に、「承認者が変更付きで承認することを許可する」オプションがデフォルトで選択されます。「承認者が変更付きで承認することを許可する」オプションは、**overrideApproveWithChanges** プロパティが True に設定されている場合に編集可能になります。

承認のセットアップ時に「承認者が変更付きで承認することを許可する」オプションが選択された場合、承認者は「変更付きで承認」オプションを選択することでタスクを承認できます。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

10.0.0.2

overrideApproveWithChanges

説明

これが True に設定されている場合、ユーザーはプロジェクト・テンプレートやプロジェクトで承認をセットアップする際や、スタンドアロンの承認をセットアップする際に、「承認者が変更付きで承認することを許可する」オプションのデフォルト設定を編集することができます。デフォルトの設定値は「**approveWithChanges**」プロパティによって決定されます。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | templates

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations におけるテンプレートについての情報を指定します。最良の結果を得るには、これらのパラメーターのデフォルト値を変更しないでください。

templatesDir

説明

すべてのプロジェクト・テンプレート定義を格納する XML ファイルを入れるためのディレクトリを指定します。

絶対パスを使用してください。

デフォルト値

<IBM_IMS_Home>/<MarketingOperations_Home>/templates

assetTemplatesFile

説明

資産のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

asset_templates.xml

planTemplatesFile

説明

計画のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

plan_templates.xml

programTemplatesFile

説明

プログラムのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

program_templates.xml

projectTemplatesFile

説明

プロジェクトのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

project_templates.xml

invoiceTemplatesFile

説明

請求書のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

invoice_templates.xml

componentTemplatesFile

説明

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

component_templates.xml

metricsTemplateFile

説明

メトリックのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

metric_definition.xml

teamTemplatesFile

説明

チームのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

team_templates.xml

offerTemplatesFile

説明

オファーのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

uap_sys_default_offer_comp_type_templates.xml

Marketing Operations | umoConfiguration | attachmentFolders

これらのプロパティは、添付ファイルのアップロードと保管に使用するディレクトリを指定します。

uploadDir

説明

プロジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリ。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/projectattachments

planUploadDir

説明

計画の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリ。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/planattachments

programUploadDir

説明

プログラムの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリ。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/programattachments

componentUploadDir

説明

マーケティング・オブジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリ。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/componentattachments

taskUploadDir

説明

タスクの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/taskattachments`

approvalUploadDir

説明

承認項目が保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/approvalitems`

assetUploadDir

説明

資産が保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/assets`

accountUploadDir

説明

アカウントの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/accountattachments`

invoiceUploadDir

説明

請求書の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/invoiceattachments`

graphicalRefUploadDir

説明

属性イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/graphicalrefimages`

templateImageDir

説明

テンプレート・イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/images`

recentDataDir

説明

各ユーザーの最近のデータ (直列化済み) を保管する一時ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/recentdata`

workingAreaDir

説明

グリッドのインポート時にアップロードされた CSV ファイルを保管する一時ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/umotemp`

managedListDir

説明

管理対象のリスト定義が保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/managedList`

Marketing Operations | umoConfiguration | Email

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations における E メール通知の送信に関する情報を指定します。

notifyEMailMonitorJavaMailHost

説明

E メール通知メール・サーバーの DNS ホスト名またはそのドット形式の IP アドレスのいずれかを指定するストリング (オプション)。SMTP サーバーのマシン名または IP アドレスに設定されます。

セッション・パラメーターを使用する既存の JavaMail セッションを IBM Marketing Operations に提供しておらず、委任が「完了」とマークされている場合は、このパラメーターが必要です。

デフォルト値

`[CHANGE-ME]`

notifyDefaultSenderEmailAddress

説明

有効な E メール・アドレスを設定します。システムは、通知 E メール・メッセージを送信するための有効な E メール・アドレスがない場合には、このアドレスに E メール・メッセージを送信します。

デフォルト値

[CHANGE-ME]

notifySenderAddressOverride

説明

このパラメーターを使用して、通知における「返信」および「差出人」の E メール・アドレスの標準値を指定します。デフォルトでは、これらのアドレスには、イベント所有者の E メール・アドレスが設定されます。

デフォルト値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration | markup

これらのプロパティは、マークアップ・オプションを指定します。IBM Marketing Operations には、添付ファイルのコメントを作成するためのマークアップ・ツールが用意されています。Adobe Acrobat マークアップまたはネイティブ Marketing Operations マークアップのいずれかを使用できます。使用するオプションを構成するには、このカテゴリーのプロパティを使用します。

markupServerType

説明

使用するマークアップ・オプションを決定します。

有効な値

- SOAP を指定すると、ユーザーは PDF 文書のマークアップを編集および表示できます。マークアップには Adobe Acrobat Professional が必要です。これを指定した場合、ユーザーはネイティブ Marketing Operations メソッドを使用して Web ブラウザーで以前に作成されたマークアップを表示できません。

SOAP を指定する場合は、**markupServerURL** パラメーターも構成する必要があります。

SOAP を指定する場合は、Adobe Acrobat がインストールされているディレクトリーの JavaScripts サブディレクトリーにコピーされたカスタマイズ済み UMO_Markup_Collaboration.js を削除する必要があります。

例: C:\Program files (x86)\Adobe\Acrobat

10.0\Acrobat\Javascripts\UMO_Markup_Collaboration.js。このファイルは不要になりました。

- MCM を指定すると、ユーザーが Web ブラウザーでマークアップを編集および表示できるネイティブ Marketing Operations マークアップ・メソッドを使用できます。これを指定した場合、ユーザーは、以前に Adobe Acrobat を使用して PDF で作成されたマークアップを編集することも表示することもできません。
- ブランクの場合、マークアップ機能は無効になり、「マークアップの表示/追加」リンクは表示されません。

デフォルト値

MCM

markupServerURL

説明

markupServerType = SOAP に依存します。

マークアップ・サーバーをホストするコンピューターの URL を設定します (Web アプリケーション・サーバーが listen に使用するポートの番号を含みます)。この URL には、完全修飾ホスト名が含まれていなければなりません。

HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

デフォルト値

http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl

instantMarkupFileConversion

説明

True の場合、IBM Marketing Operations は、ユーザーがマークアップの項目を初めて開くときに PDF 添付資料からイメージへの変換を実行するのではなく、PDF 添付資料がアップロードされるとすぐにこの変換を実行します。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | grid

これらのプロパティは、グリッドに関するオプションを指定します。

gridmaxrow

説明

グリッドで取得される最大行数を定義する整数 (オプション)。デフォルトの -1 の場合は、すべての行が取得されます。

デフォルト値

-1

reloadRuleFile

説明

グリッド検証プラグインを再ロードする必要があるかどうかを示すブール・パラメーター (オプション)。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

gridDataValidationClass

説明

カスタム・グリッド・データ検証クラスを指定するパラメーター (オプション)。指定しない場合は、デフォルトの組み込みプラグインがグリッド・データ検証に使用されます。

デフォルト値

ブランク

tvcDataImportFieldDelimiterCSV

説明

グリッドにインポートされたデータの解析に使用する区切り文字。デフォルトはコンマ (,) です。

デフォルト値

, (コンマ)

maximumFileSizeToImportCSVFile

説明

TVC のコンマ区切りデータをインポートするときにアップロードできる最大ファイル・サイズ (MB) を表します。

デフォルト値

0 (無制限)

maximumRowsToBeDisplayedPerPageInGridView

説明

グリッド・ビューの 1 ページ当たりの表示行数を指定します。

有効な値

正整数

デフォルト値

100

griddatxsd

説明

グリッド・データ XSD ファイルの名前。

デフォルト値

griddataschema.xsd

gridpluginxsd

説明

グリッド・プラグイン XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridplugin.xsd

gridrulesxsd

説明

グリッド・ルール XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridrules.xsd

Marketing Operations | umoConfiguration | workflow

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations におけるワークフローについてのオプションを指定します。

hideDetailedDateTime

説明

タスク・ページにおける詳細な日時のパラメーターの表示/非表示パラメーター (オプション)。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

daysInPastRecentTask

説明

このパラメーターは、タスクが「最新」と見なされる期間を決めます。タスクが「アクティブ」であり、開始されてからの期間がこの日数未満であるか、またはタスクの「ターゲット終了日」が現在日付とこの日数前の日付との間にある場合、そのタスクは最新のタスクとして表示されます。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

daysInFutureUpcomingTasks

説明

このパラメーターは、将来の何日間について次のタスクを検索するかを決定します。タスクが次の **daysInFutureUpcomingTasks** の期間に開始する場合、または現在日付の前に終了しない場合、そのタスクは次のタスクとなります。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

beginningOfDay

説明

営業日の始業時間。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワークフローの日時の計算に使用されます。

有効な値

0 から 12 の整数

デフォルト値

9 (9 AM)

numberOfHoursPerDay

説明

1 日当たりの時間数。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワークフローの日時の計算に使用されます。

有効な値

1 から 24 の整数

デフォルト値

8 (時間)

mileStoneRowBGColor

説明

ワークフロー・タスクの背景色を定義します。この値を指定するには、色を表す 6 文字の 16 進コードの前に # 文字を挿入します。例えば、#0099CC と指定します。

デフォルト値

#DDDDDD

Marketing Operations | umoConfiguration | integrationServices

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations 統合サービス・モジュールについての情報を指定します。統合サービス・モジュールは、Marketing Operations の機能を Web サービスとトリガーを使用して拡張します。

enableIntegrationServices

説明

統合サービス・モジュールを有効および無効にします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

integrationProcedureDefinitionPath

説明

カスタム・プロシージャ定義 XML ファイルへの絶対ファイル・パス (オプション)。

デフォルト値

`[plan-home]/devkits/integration/examples/src/procedure/procedure-plugins.xml`

integrationProcedureClasspathURL

説明

カスタム・プロシージャのクラスパスへの URL。

デフォルト値

`file:/// [plan-home]/devkits/integration/examples/classes/`

Marketing Operations | umoConfiguration | campaignIntegration

このカテゴリのプロパティは、Campaign 統合のオプションを指定します。

defaultCampaignPartition

説明

IBM Marketing Operations が IBM Campaign と統合されていると、このパラメーターは、プロジェクト・テンプレートに `campaign-partition-id` が定義されていない場合にデフォルトの Campaign パーティションを指定します。

デフォルト値

`partition1`

webServiceTimeoutInMilliseconds

説明

Web サービス統合 API 呼び出しに追加されます。このパラメーターは、Web サービス API 呼び出しのタイムアウトとして使用されます。

デフォルト値

`1800000` ミリ秒 (30 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | reports

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations が使用するレポートについての情報を指定します。

reportsAnalysisSectionHome

説明

分析セクション・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。

デフォルト値

`/content/folder[@name='Affinium Plan']`

reportsAnalysisTabHome

説明

分析タブ・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。

デフォルト値

`/content/folder[@name='Affinium Plan - Object Specific Reports']`

cacheListOfReports

説明

このパラメーターは、オブジェクト・インスタンスの分析ページにおけるレポート・リストのキャッシングを有効にします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | invoiceRollup

このカテゴリーのプロパティは、請求書ロールアップのオプションを指定します。

invoiceRollupMode

説明

ロールアップがどのように発生するかを指定します。許容値は以下のとおりです。

有効な値

- **immediate**: 請求書が支払い済みとマークされるたびに、ロールアップが発生します。
- **schedule**: スケジュールに基づいてロールアップが発生します。

このパラメーターが **schedule** に設定されると、システムは以下のパラメーターを使用して、ロールアップ発生タイミングを決定します。

– **invoiceRollupScheduledStartTime**

– invoiceRollupScheduledPollPeriod

デフォルト値

immediate

invoiceRollupScheduledStartTime

説明

invoiceRollupMode が `schedule` である場合、このパラメーターは以下のよう
に使用されます。

- このパラメーターに値 (例えば、11:00 pm) が含まれている場合、その
値は、スケジュールが開始するための開始時刻となります。
- このパラメーターが未定義の場合は、サーバーの始動時にロールアッ
プ・スケジュールが開始します。

invoiceRollupMode が `immediate` である場合、このパラメーターは使用さ
れません。

デフォルト値

11:00 pm

invoiceRollupScheduledPollPeriod

説明

invoiceRollupMode が `schedule` である場合、このパラメーターは、ロール
アップが発生するためのポーリング期間 (秒) を指定します。

invoiceRollupMode が `immediate` である場合、このパラメーターは使用さ
れません。

デフォルト値

3600 (1 時間)

Marketing Operations | umoConfiguration | database

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations に使用するデータベースに
ついての情報を指定します。

fileName

説明

JNDI 検索を使用してデータ・ソースをロードするためのファイルへのパ
ス。

デフォルト値

plan_datasources.xml

sqlServerSchemaName

説明

使用するデータベース・スキーマを指定します。このパラメーターは、IBM Marketing Operations データベースに SQL Server を使用している場合にのみ適用されます。

デフォルト値

dbo

db2ServerSchemaName

重要: このパラメーター用に提供されたデフォルト値を変更することは勧められていません。

説明

IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されます。

デフォルト値

ブランク

thresholdForUseOfSubSelects

説明

ここで指定したレコード数を超えると、(リスト・ページの) SQL の IN 節で、IN 節内の実際のエンティティ ID の代わりに副照会を使用する必要があります。このパラメーターを設定すると、大規模なアプリケーション・データ・セットが含まれる IBM Marketing Operations インストール済み環境のパフォーマンスが向上します。ベスト・プラクティスとして、パフォーマンスの問題が発生しない限りこの値を変更しないでください。このパラメーターがないか、あるいはコメント化されている場合、データベースは、しきい値が大きな値に設定されるかのように動作します。

デフォルト値

3000 (レコード)

commonDataAccessLayerFetchSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会について、結果セットの取り出しサイズを指定します。

デフォルト値

0

commonDataAccessLayerMaxResultSetSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会について、結果セットの最大サイズを指定します。

デフォルト値

-1

useDBSortForAllList

説明

このパラメーターは、すべての IBM Marketing Operations リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。特定のリストのページング動作をオーバーライドするには、別の **useDBSortFor<module>List** パラメーターを使用します。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForPlanList

説明

このパラメーターは、計画リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProjectList

説明

このパラメーターは、プロジェクト・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForTaskList

説明

このパラメーターは、タスク・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- **True:** データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- **False:** すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProgramList

説明

このパラメーターは、プログラム・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- **True:** データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- **False:** すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForApprovalList

説明

このパラメーターは、承認リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- **True:** データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- **False:** すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForInvoiceList

説明

このパラメーターは、請求書リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- **True:** データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- **False:** すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForAlerts

説明

このパラメーターは、アラート・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | listingPages

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations のページ上におけるマーケティング・オブジェクトやマーケティング・プロジェクトなどのリスト項目についての情報を指定します。

listItemsPerPage

説明

1 つのリスト・ページに表示される項目 (行) の数を指定します。この値は、0 より大きくする必要があります。

デフォルト値

10

listPageGroupSize

説明

リスト・ページのリスト・ナビゲーターに表示されるページ番号のサイズを指定します。例えば、ページ 1 - 5 は、ページ・グループです。この値は、0 より大きくする必要があります。

デフォルト値

5

maximumItemsToBeDisplayedInCalendar

説明

カレンダーに表示されるオブジェクト (計画、プログラム、プロジェクト、またはタスク) の最大数。このパラメーターは、ユーザーがカレンダー・ビューを選択した場合に表示するオブジェクトの数を制限します。数値 0 は、制限がないことを示します。

デフォルト値

0

listDisplayShowAll

説明

リスト・ページに「すべて表示」リンクを表示します。

デフォルト値

False

有効な値

True | False

Marketing Operations | umoConfiguration | objectCodeLocking

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations における計画、プログラム、プロジェクト、資産、およびマーケティング・オブジェクトのオブジェクト・ロックについての情報を指定します。

enablePersistentObjectLock

説明

IBM Marketing Operations がクラスター環境に配置されている場合は、このパラメーターを True に設定する必要があります。データベースにおいてオブジェクト・ロック情報は永続的です。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

lockProjectCode

説明

ユーザーがプロジェクトの「サマリー」タブでプロジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockProgramCode

説明

ユーザーがプログラムの「サマリー」タブでプログラム・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockPlanCode

説明

ユーザーが計画の「計画サマリー」タブで計画コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockMarketingObjectCode

説明

ユーザーがマーケティング・オブジェクトの「サマリー」タブでマーケティング・オブジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockAssetCode

説明

ユーザーが資産の「サマリー」タブで資産コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | thumbnailGeneration

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations がサムネールを生成する方法とタイミングについての情報を指定します。

trueTypeFontDir

説明

True Type フォントが存在するディレクトリを指定します。このパラメーターは、Aspose を使用する非 Windows オペレーティング・システムでサムネールを生成する場合には必須です。Windows インストール済み環境の場合、このパラメーターはオプションです。

デフォルト値

ブランク

coreThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールに保持される永続スレッド数を指定します。

デフォルト値

5

maxThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールで許可される最大スレッド数を指定します。

デフォルト値

10

threadKeepAliveTime

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのキープアライブ時間を構成するためのパラメーター。

デフォルト値

60

threadQueueSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・キュー・サイズを構成するためのパラメーター。

デフォルト値

20

disableThumbnailGeneration

説明

アップロードされた文書のためにサムネール・イメージを生成するかどうかを決めます。値 `True` は、サムネールの生成を有効にします。

デフォルト値

`False`

有効な値

`True` | `False`

markupImgQuality

説明

レンダリングされるページに適用される拡大率またはズーム係数。

デフォルト値

1

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | intraDay

このプロパティは、対象日におけるスケジューラーの実行頻度を指定します。

schedulerPollPeriod

説明

バッチ・ジョブが、プロジェクトの正常性ステータスの実行を毎日計算する際の頻度を秒数で定義します。

注: 日次のバッチ・ジョブだけが、レポートで使用されるプロジェクトの正常性ステータスの履歴を更新します。

デフォルト値

60 (秒)

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | daily

このプロパティは、スケジューラーの毎日の開始時刻を指定します。

schedulerStartTime

説明

プロジェクトの正常性ステータスを計算するバッチ・ジョブの開始時刻を定義します。このジョブは、以下のことも行います。

- レポートで使用されるプロジェクトの正常性ステータスの履歴を更新します。
- E メール通知を配信登録しているユーザーへの配布を開始します。

注: システムがこのバッチ・ジョブを開始するのは、計算がまだ実行されていない場合だけです。ジョブが **intraDay** パラメーターとは異なる時刻に、そしてユーザーがこの計算を手動で要求する可能性の低い時刻に開始するように、このパラメーターを定義してください。

デフォルト値

11:00 pm

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications

これらのプロパティは、イベント・モニターについての情報を含む、IBM Marketing Operationsにおける通知に関する情報を指定します。

notifyPlanBaseURL

説明

IBM Marketing Operations 配置の URL (ホスト名とポート番号を含む)。
Marketing Operations では、Marketing Operations 内の他の情報へのリンクを含む通知に、この URL が組み込まれます。

注: メール・クライアントと IBM Marketing Operations サーバーを同じサーバー上で実行している場合以外は、「localhost」をサーバー名として使用しないでください。

デフォルト値

`http://<server>:<port>/plan/affiniumplan.jsp`

notifyDelegateClassName

説明

サービスによってインスタンス化される委任実装の完全修飾 Java クラス名。このクラスは、`com.unicacorp.afc.service.IServiceImpl` インターフェースを実装する必要があります。指定しない場合は、デフォルトでローカル実装になります。

デフォルト値

ブランク

notifyIsDelegateComplete

説明

委任実装が完了したかどうかを示すブール・ストリング (オプション)。指定しない場合は、デフォルトで `True` に設定されます。

デフォルト値

`True`

有効な値

`True | False`

notifyEventMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてイベント通知モニターの処理が開始される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては `11:45 pm` などが考えられます。

デフォルト値

ブランク (Marketing Operations の始動直後)。

notifyEventMonitorPollPeriod

説明

イベント・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義します。ポーリング期間とポーリング期間の間、イベントはイベントキューに累積されます。ポーリング期間が短いほど通知の処理が早く行われますが、システムのオーバーヘッドが大きくなる場合があります。既定値を削除して値をブランクのままにすると、ポーリング期間はデフォルトで短時間 (通常は 1 分未満) に設定されます。

デフォルト値

5 (秒)

notifyEventMonitorRemoveSize

説明

1 回でキューから削除するイベント数を指定します。 イベント・モニターは、イベント・キューからイベントを、この値で指定された数ずつキューが空になるまで削除します。

注: イベント処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外の数に設定することもできます。ただし、削除されたイベントが処理される前にサービス・ホストがダウンした場合にイベントが失われる恐れがあります。

デフォルト値

10

alertCountRefreshPeriodInSeconds

説明

アラート数に関するシステム全体のアラート数リフレッシュ期間 (秒) を指定します。この数は、ユーザーのログイン後にナビゲーション・バーの上部付近に表示されます。

注: マルチユーザー環境では、リフレッシュ期間を変更してポーリングを高速にすると、パフォーマンスに影響が出る場合があります。

デフォルト値

180 (3 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | Email

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおける E メール通知についての情報を指定します。

notifyEMailMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて E メール・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm などが考えられます。

デフォルト値

ブランク (IBM Marketing Operationsの始動直後)。

notifyEMailMonitorPollPeriod

説明

E メール・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義します。

注: イベントと同様に、ポーリング期間とポーリング期間の間、E メール・メッセージはキューに累積されます。ポーリング時間が短いほど E メール・メッセージが早く送信されますが、システムのオーバーヘッドが大きくなる場合があります。

デフォルト値

60 (秒)

notifyEMailMonitorJavaMailSession

説明

E メール通知に使用する、既存の初期化済み JavaMail セッションの JNDI 名。これが未指定であり、委任が「完了」とマークされている場合は、IBM Marketing Operations がセッションを作成できるように JavaMail ホスト・パラメーターを指定する必要があります。

デフォルト値

ブランク

notifyEMailMonitorJavaMailProtocol

説明

E メール通知に使用するメール・サーバー・トランスポート・プロトコルを指定します。

デフォルト値

smtp

notifyEMailMonitorRemoveSize

説明

1 回にキューから削除する E メール・メッセージ数を指定します。E メール・モニターは、E メール・キューからメッセージを、この値で指定された数ずつ削除し、これをキューが空になるまで続けます。

注: E メール処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外の数に設定することもできます。ただし、削除された E メール・メッセージが処理される前にサービス・ホストがダウンした場合、メッセージが失われる恐れがあります。

デフォルト値

10 (メッセージ)

notifyEMailMonitorMaximumResends

説明

最初の送信試行が失敗した E メール・メッセージの送信を試行する最大回数を指定します。送信が失敗した場合、E メールは、このパラメーターで許可される最大試行回数に到達するまでキューに戻されます。

例えば、**notifyEMailMonitorPollPeriod** が 60 秒ごとにポーリングするよう設定されているとします。**notifyEMailMonitorMaximumResends** プロパティを試行回数 60 に設定すると、E メール・モニターは失敗したメッセージをポーリングごと (つまり毎分) に 1 回、最大 1 時間、再試行を試みます。値 1440 (24x60) を設定した場合、E メール・モニターは、1 分間隔で最大 24 時間試行します。

デフォルト値

1 (試行)

showUserNameInEmailNotificationTitle

説明

IBM Marketing Operations 通知およびアラート・システムで、E メール通知の「差出人」フィールドにユーザー名を入れるかどうかを指定します。

注: この設定は、IBM Marketing Operations の通知およびアラート・システムによって送信される E メール・メッセージにのみ適用されます。

有効な値

- True : Marketing Operations はメッセージ・タイトルの後ろにユーザー名を追加し、その両方を Eメールの「差出人」フィールドに表示します。
- False : Marketing Operations はメッセージ・タイトルのみを「差出人」フィールドに表示します。

デフォルト値

False

notifyEMailMonitorJavaMailDebug

説明

JavaMail デバッグ・モードを設定するかどうかを指定します。

有効な値

- True: JavaMail デバッグを有効にします。
- False : デバッグ・トレースを無効にします。

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | project

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおけるプロジェクト・アラームについての情報を指定します。

notifyProjectAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてプロジェクト・アラーム・モニターが実行される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm などが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、このモニターは、作成された直後に開始します。

デフォルト値

10:00 pm

notifyProjectAlarmMonitorPollPeriod

説明

プロジェクト・アラーム・モニターおよびプログラム・アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プロジェクトの開始日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プロジェクトの終了日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledStartCondition

説明

タスクの開始日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザー開始通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledEndCondition

説明

タスクの終了日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskLateCondition

説明

タスクの開始日の何日後に、IBM Marketing Operations がユーザーに、タスクが開始しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskOverdueCondition

説明

タスクの終了日の何日後に、IBM Marketing Operations がユーザーに、タスクが終了しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledMilestoneCondition

説明

マイルストーン・タスクの開始日の何日前に、IBM Marketing Operations が通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | projectRequest

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおけるプロジェクト要求アラームについての情報を指定します。

notifyRequestAlarmMonitorLateCondition

説明

要求が遅れているという通知を IBM Marketing Operations が送信する日数を定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyRequestAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

要求の終了日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | program

このカテゴリーのプロパティは、プログラム通知スケジュールのオプションを指定します。

notifyProgramAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プログラムの開始日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに開始通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProgramAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プログラムの終了日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | marketingObject

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおけるマーケティング・オブジェクト・アラームについての情報を指定します。

notifyComponentAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの開始日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに開始通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyComponentAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの終了日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | approval

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおける承認アラームについての情報を指定します。

notifyApprovalAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて承認アラーム・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては `11:59 pm` などが考えられます。デフォルトを削除し、この値を空白のままにすると、モニターは、作成された直後に開始します。

注: 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyApprovalAlarmMonitorPollPeriod

説明

承認アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyApprovalAlarmMonitorLateCondition

説明

承認の開始日の何日後に、システムがユーザーに承認が遅れていることを通知し始めるかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyApprovalAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

承認の終了日の何日前に、システムが終了通知をユーザーに送信し始めるかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | asset

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations における資産アラームについての情報を指定します。

notifyAssetAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて資産アラーム・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な

どが考えられます。デフォルトを削除し、この値をブランクのままにすると、モニターは、作成された直後に開始します。

注: 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

11:00 pm

notifyAssetAlarmMonitorPollPeriod

説明

資産アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープする時間(秒)を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyAssetAlarmMonitorExpirationCondition

説明

資産が期限切れになる何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに対して資産がもうすぐ期限切れになることを通知するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations は有効期限をチェックしません。

デフォルト値

5 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | invoice

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおける請求書アラームについての情報を指定します。

notifyInvoiceAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて請求書アラーム・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm などが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、モニターは、作成された直後に開始します。

注: 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyInvoiceAlarmMonitorDueCondition

説明

期日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに対して請求書の期日が近づいていることを通知するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

5 (日)

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に

資料を調べても解決できない問題に遭遇した場合、貴社の指定の窓口担当者は IBM 技術サポートとの通話を記録することができます。問題を効率的かつ正しく解決するために、以下のガイドラインを使用してください。

貴社の指定の窓口担当者でない方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートは、API スクリプトの記述も作成も行いません。API オファリングの実装で支援が必要な場合は、IBM 専門サービスにお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に、以下の情報をご用意ください。

- 問題の性質に関する簡単な説明。
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細
- 問題を再現するための詳細な手順
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル
- 製品およびシステム環境に関する情報 (この情報は「システム情報」の説明に従って取得できます)。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、お客様の環境に関する情報の提供をお願いすることがあります。

問題がログインの妨げになっていない場合、この情報の多くは「バージョン情報」ページから得られます。このページでは、インストール済みの IBM アプリケーションに関する情報が提供されています。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択します。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合、`version.txt` ファイルをご確認ください。このファイルはアプリケーションのインストール・ディレクトリの下にあります。

IBM 技術サポートの連絡先情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、IBM 製品技術サポート Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは IBM カスタマー番号とリンクしていなければなりません。

せん。アカウントを IBM カスタマー番号に関連付ける方法については、サポート・ポータルの「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよびご利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBMの使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置

することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および(3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan